

# 「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト活動報告

活動日 2022年6月5日

活動名	第16回筑波山水源の森づくり	
活動団体名	NPO 法人地球の緑を育てる会	
活動目的	筑波山神社林内での活動 40-50年前に植えられたスギ、ヒノキなどの針葉樹の人工林を間伐、除伐後、植栽地の造成、広葉樹を植樹し、水源の森、防災環境保全林としての機能向上を目的として針広混交林へと再生させる。	
活動内容	植樹祭事前準備として比較的細いスギ、ヒノキを間伐、十分な陽光の入る空間をつくり、間伐材を土留めに使用して植栽地を造る。6月5日の植樹祭には306名のボランティアが参加、筑波山神社境内にて吉村和就氏（グローバルウオータ・ジャパン代表・吉村和就氏の「森づくりは、水づくり！」の講話を聞いた。その後、植樹地へと移動、参加者がカゴに分配された苗を運び上げた。その後、シラカシ、アカガシ、スタジイ、ヤマザクラなどの常緑、落葉広葉樹1000本を一斉に植えた。植え方を指導したのは、藤原一繪横浜国立大学名誉教授。植え終わると苗の保護のため、間伐材の葉で植樹地全面を覆うようにマルチングした。全てを終了して筑波山神社に戻り、参加者全員に弁当を配布して無事植樹祭を終えた。	
活動写真		
写真説明	植えるインドネシアからの留学生	筑波山神社境内での参加者記念撮影
活動効果	2006年から始めた事業であり、当初の頃植えた苗は、10m前後に成長し、大きな森を形成しつつある。この植樹祭の苗も同様に、水源の森、防災環境保全林として大きく生長するであろう。	
今後の展望	山中での植樹であるため、一度に沢山の苗は植えられないが、細く長く続けて行く所存である。	

2022年6月20日記載